

(参考) 災害時 ボランティアの感染症予防 ～予防接種について～

感染症を被災地に持ち込まない、および自身が罹患しないために、ボランティアの方が現地へ入る場合、以下の点について注意を呼びかけましょう。

- 体調が悪い場合は、ボランティアの延期を検討する必要があります。
- ワクチンで予防できる疾患に関しては、母子健康手帳などでワクチン接種歴を確認し、望ましいと考えられるワクチンについては、可能な限り接種してから現地に向かうことが推奨されます。

【接種が推奨されるもの】

ワクチン名	備考
麻疹・風疹混合ワクチン	2回の接種記録がない場合
インフルエンザワクチン	全員
破傷風トキソイドワクチン	※創傷を負う可能性がある作業に従事する場合は接種を強く推奨 ※特に定期接種開始以前の方は接種を推奨 ※定期接種開始日：1968年10月15日 ※小児期にDPT、DTワクチンの接種を受けている方は、過去10年以内に接種を受けていなければ、1回の追加接種を推奨

- 現地での健康管理には、各自で十分注意していただき、体調の悪い時は、ボランティアセンターあるいは健康管理者などに告げて現場を離れ、受診するなどの対応が必要です。（被災された方々や一緒に活動されている方々に感染を拡大させないためにも重要です。）
- 森林や草地等に入る場合、ダニ媒介性疾患の感染の可能性があるので、長袖、長ズボン及び足を完全に覆う服装をして肌の露出を少なくすることが重要です。
- 咳エチケット（マスクの着用、咳込むときに口を覆うことなど）、飲食前やトイレ後の手指衛生（擦式アルコール手指消毒薬、アルコール綿の小パッケージなどの持参を推奨）など、可能な限りの感染症予防策を心掛ける必要があります。

参考：令和6年1月19日

国立感染症研究所実地疫学研究センター、感染症危機管理研究センター、感染症疫学センター